

Ⅲ

公民館活動の10年



Ⅲ 公民館活動の10年

1. 子どもと公民館

はじめに

現在の子どもたちは、異年齢集団のなかで遊ぶことが、ほとんどありません。そのなかで、自分でものを考え、行動する能力が失われています。

そこで、子ども同士が遊びや創作活動、野外活動を通して、異年齢集団を形成していくなかで、子どもたちがやりたいことを子どもたち同士で協力し、実現していくために働きかけていくことのできる力を育てていく場として、さまざまな教室が開かれてきました。

公民館開館以前は、昭和43年の子ども会リーダー研修会より少年対象の事業は始まりました。この講座は、地域の子ども会のリーダーを対象に、1)遊ぶ楽しさを取りもどし、多くの仲間たちと遊べる集団を作るためのあそび技術の伝承、2)集団を民主的に運営するための技術、3)自主的な運営と計画を実施するための手だてを学ぶの3本の柱をもとに社会教育課で実施されていました。

また、現在、都立多摩社会教育会館で実施されている「少年教育セミナー」の開設に関わったのも、開館以前の昭和47年でした。当市と狛江市の担当職員が都庁へ行き、その開設をお願いしました。

主催事業のあゆみ

公民館は昭和52年に開館しました。昭和50年から始まったわんぱく教室は当初は子ども会リーダー研修会としての内容でしたが、公民館開館時は「縄文時代の生活に挑戦」というようにひとつのテーマ性を持つようになってきました。また、自然をテーマにした自然教室もこの年に始まりました。翌年には、開館時の3講座から8講座に増え、それまで事業の中心であった青年の講座数を上回りました。このことは、青年の事業に子どもの事業がとってかわり、公民館事業の中心になってきたことを意味します。

昭和54年に、松林分館が開館しました。その存在を地域に知ってもらうこと、地域に子どもに関するものがないという理由で、子どもを重視した会館方針で本館の5講座よりも多い7講座で開館しました。この方針は現在も続き、当市の子ども対象事業の中心になっています。

昭和55年には、白梅分館が開館し、4講座開設しました。3館では、14講座となり、現在の

形の原型がつくられました。

また、白梅分館では、昭和56年に、松林分館では、昭和58年に、子どもによる実行委員会形式のつどいが始まりました。講座という与えられたプログラムではなく、自分たちでつくるプログラムづくりが始まりました。

昭和60年、児童館が開館し、子どもの事業が多く行われるようになりました。子どもは児童館との区分けから、他市においては、子どもの事業が全くなってしまうところもありますが、当市においては以前と同様に公民館で子どもをあつかっています。それは、公民館に子どもが関わることに大きな意味があると考えているからです。

例えば、わんぱく教室は10年、たんけん教室は9年、サバイバル教室は8年、子ども教室は6年と長期にわたり教室が開催されています。初回に参加した子どもはもう青年として公民館にかかわっています。また、その教室の子どもと関わる大人、地域も同じ歴史をもっています。長い目でみれば、公民館と子どもが関わることは、ただ単に子どもと関わっていくことではなく、その地域と関わっていくことだと思います。

また、同年、はじめての3館合同の事業、合同キャンプが始まりました。3館の教室に集う子どもたちは、各教室により多種多様です。この子どもたちが、一同に会し、3日間を共にし、他の教室から影響を受けあうことは、教室に関わる大人たちにとっても意義のあることです。

過去、10年を簡単に振りかえってきましたが、現在では、児童館をはじめとする色々なところで子どもの事業が開かれています。子どもとそれに関わる大人、地域のセンターとしての役割が公民館に求められているのではないのでしょうか。

グループ活動のあゆみ

現在、公民館では、子どもたちが中心になって活動しているグループが5団体あります。「子どもクッキングクラブ」「子どもゲートボール」「クレヨン」「ボーイスカウト」「ガールスカウト」です。以前は7団体あったことを考えると子どもが中心のグループ活動の継続は大変困難なことをあらわしています。それは、子ども自身に仲間づくりの力がなくなっていることでもあります。子どもの活動を支えていくには、大人の強力な援助が必要だということです。

公民館で最も長く活動している「子どもクッキングクラブ」は、昭和54年から始まったグループで小学生の女の子が中心になっています。高橋登志江氏が大人として関わり、クッキーとケーキづくりが主な活動ですが、公民館のつどいへの参加など、幅広く活動しています。

また、現在は活動していませんが、「子どもクッキングクラブ」と同時期に始まった「マンガクラブ」の活動も見落してはいけないでしょう。公民館の夏休みマンガ教室がきっかけで始

まったこのグループは、マンガ家の原嶋卓三氏を中心にマンガの制作と人形劇を主な活動としていました。保育園からの公演依頼も多く、7年間、精力的な活動をしていました。

このように長く活動している(していた)グループには、色々な問題にぶつかります。ですから大人として子どもを援助していかなければなりません。それは、子どもに関わる大人だけの問題ではなく、公民館も共に考える姿勢をもたなければいけないでしょう。

子どもクッキングクラブに参加して

渡辺 佳子

私がクッキングに入るきっかけとなったのは、「私、忙しくて止めるんだけど代りに入らない?」という一期生の言葉でした。そこで、私は高橋先生に何度も電話して、小学3年の秋に入りました。



普段の活動は、日曜日、朝の9時から始めます。ハンドミキサーで済ますところを全部手でやり、あわたて機についた甘いクリームはなめてから洗う。これは、我々クッキングクラブの法則であります。クッキーのタネをつくりおえ、ねかせておく30分は、ママレモンが空になるほど使い、シャボンを流し一杯につくって、時間を使ってしまいます。(それは、毎回ではありませんが)次に型ぬき。好きな型を使い顔を書いたり、好きな男の子の名前を書いたり、工夫をこらしてできたクッキーをオーブンに入れて焼きます。焼き上がるまでは、お弁当を食べて待ちますが、弁当に夢中になっているとクッキーは黒人になってしまいます。でも、そのクッキーも午後のお喋りタイムの時にちゃんと処理されます。

身体障害者の皆さんとも、一緒に料理をしたことがあります。最初はうまくやれるか、心配だったけれど、いろいろな事がわかりました。身体障害者の人には、優しく丁寧に教えてあげれば、相手も分かってくれます。また、上手に出来たり、つくれたりすると、私たちまで「やったあ」という気持ちになれるのです。この活動で私たちは身体障害者の方との接し方や教える方の気持ちがわかったのです。

また、クッキングクラブは毎年夏にキャンプにいきます。計画から買い出し、持ち物分担まで全部自分たちで決め、実行します。現地(奥多摩)に行ってもそうです。自分の事は自分でやる。そうでなくては誰もやってくれないのだから。その事に私は満足感を持っています。初めて自分で全部の責任を持ったという満足感です。そんな一夏の経験をして家へ帰った私たちは顔が黒くなっただけでなく、ちゃんと大人の階段を一步前進していたのです。

クッキングクラブは、私たち子供の権利を主張し、個人の個性を生かせるクラブです。また、花嫁修行の場でもあるのです。

主 催 事 業 の あ ゆ み

	52 年	53 年	54 年	55 年	56 年	57 年	58 年	59 年	60 年	61 年
本 館	わんぱく教室 夏休み自然教室 冬の自然教室	夏休み子ども教室 子ども陶芸教室 たんけん教室 春休み子ども教室 冬の自然観察会	子ども会リーダー研修会 夏休みマンガ教室 ⑬	子ども会リーダー研修会 夏休み子ども教室 親子七宝焼教室	子ども指文字、手芸教室 (リーダー研修会)	やさしいエレクトロニクス教室	英会話でクッキーづくり (リーダー研修会)	子ども会リーダー研修会 ⑬	子どもアウトドア教室 合同キャンプ	
			わんぱく教室 習字教室 冬の子ども教室 子ども科学教室 子どもサバイバル教室 伝承あそび教室 親子でつくろう 伝統玩具	夏休み子ども教室 親子七宝焼教室	子ども教室 ⑬			夏休み科学教室		
					親子工作教室	夏休み工作教室	子どもフェスティバル	親子おりがみ教室	松林子どもハイキングクラブ	冬休み工作教室
				子ども指人形教室 わんぱく教室 子ども手芸教室 冬のわんぱく教室	子どもまつり 親子七宝焼教室			松林たこあげ大会	たんけん教室 ワイワイ子どもひろば 子ども合唱教室 おもしろ科学あそび教室	子どもはやし教室 白梅親子はんどうすいはん
松 林 分 館										
白 梅 分 館										

主 な 主 催 事 業

昭和52年

わんぱく教室

7月9日	オリエンテーション		集合時間
16日	ゲームを覚えよう 君たちの班を作ろう	福 祉 会 館	午後1時30分～
23日	縄文時代の人々はどうやって道具を作ったか	体育館集合	〃
27日	縄文人の方法で火をおこそう	福 祉 会 館	午前10時
30日	話しあい	福 祉 会 館	午後1時30分
8月3日	縄文時代の住宅と生活	市 民 会 館	午前10時
6日	縄文人の小屋を作ろう	体 育 館	〃
10日	手づくりで食料をつくろう		〃
13日	長沢遺跡の発掘に参加しよう	長 沢 遺 跡	午前9時
14・15日	〃	〃	〃
17日	縄文村作りの話しあい	市 民 会 館	午前10時
22日 ～24日	縄文村作り 会場等は8月に入ってから知らせます	会 場 未 定	〃

昭和53年

子ども陶芸教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7.31	粘土で形を創ろう	粘土で自分の好きな作品を作る	担 当 職 員
8. 7	〃	〃	〃
8.14	素焼・色づけ	彩色、素焼した作品に自分の色をぬる	〃
8.21	本焼	焼物がどうやってやけるかをみんなでみよう	〃
8.27	縄文土器を作ろう	昔の人はどんな方法で焼物を作ったか	塩野半十郎

昭和54年

夏休みマンガ教室

月 日	テ ー マ	内 容
8. 12	マンガの説明	マンガの意味とマンガができるまでの話し。
8. 13	マンガの描き方	具体的なマンガの書き方 — (1)
8. 15	〃	〃 — (2)

夏休み自然教室

月 日	テ ー マ	内 容
7. 27	オリエンテーション	班分け 自然教室の説明
8. 2	植物を見よう	近くの河原の植物の分布状況を調べる。
8. 8	昆虫をみつけるぞ	市内の林に住む昆虫を調べる。
8. 11	緑を調べよう	市内2ヶ所の公園の樹木の名前と数を調べ、比較する。
8. 16	キャンプの打合せ	キャンプ(24時間調査)の打合せ
8. 17	キャンプ	} 福生の1日(24時間)をいろいろな角度から調べる。
8. 18	キャンプ	
8. 22	福生を見て歩こう	} 市内の緑の残っている様子を調べる。
8. 24	〃	
8. 30	ま と め	反省とまとめ

子ども会リーダー研修会

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 1	オリエンテーション	指人形作りの説明と指人形の頭作り	原島サブロー
3. 8	指人形作り	油ねん土により指人形の頭作り	〃
3. 15	〃	ねん土の頭へ紙をはる	〃
3. 22	〃	中のねん土を取りのぞき、紙だけの頭にする	〃
3. 29	〃	紙だけの頭に色を塗る	〃
4. 5	〃	各人形の服作り	〃

青空教室 地域を調べてみよう

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師
7. 26	オリエンテーション。どんな調査をしたいかレポート	田 村 光 男 (国立 3 中教諭)
8. 2	調査項目の作成	〃
8. 9	〃	〃
8. 16	調査、フィールドに出る。福生砂線のあとをたどる。聞きとり	〃
8. 23	〃	〃
8. 25	まとめをつくろう	〃

子ども科学教室

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師
3. 26	オリエンテーション。これからの学習のすすめ方	
3. 27	やさしいラジオ。手づくりラジオをつくろう	齊藤 明朗・神蔵 誠 (中学生指導者グループ)
3. 28	〃	〃
3. 29	電気であそぼう。電気の性質は実験でたしかめよう	掛川悦子 (薬剤師)
4. 1	博物館へ行こう。市立郷土資料室	

子どもサバイバル教室

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
6. 27	ゲームで友達をつくろう	オリエンテーション・室内ゲーム	松 林 分 館
7. 4	アドベンチャー・ゲーム	追跡サインゲーム、他	武蔵野台公園
7. 11	水をつくろう	ビニールシートで水をつくる	松 林 分 館
7. 18	火・連絡	サバイバル・マッチ、手旗信号	松 林 分 館
7. 25	測 る	体のものさし、他	松 林 分 館
8. 1	むすびの技術をマスターしよう	むすびのいろいろ	武蔵野台公園
8. 8	デイ・キャンプ	穴を掘って蒸し焼き料理	柳 山 公 園

伝承あそび教室

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
8. 22	工作あそび	糸巻きブルドーザー	松 林 分 館
8. 23	草・木のあそび	ささ舟、松葉のおすもうさん	〃
8. 24	紙のあそび	吹き矢、竹鉄砲	〃
8. 25	工作あそび	まわり燈籠	〃

親子で作ろう伝統玩具

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
3. 24	はりこの話	デザイン構想、鑑賞	木住野利明氏	松 林 分 館
3. 27	型作り	型作り		〃
3. 29	紙はり	紙はり、型ぬき	伝統玩具製作家	〃
3. 31	色つけ	色つけ、鑑賞会		〃

昭和55年

夏休み子ども教室・びんぼう工作

月 日	内 容	講 師	場 所
8. 22	廃物利用のデコパージュの基本	松 本 加 代 子 氏	松 林 分 館
8. 25	〃 の応用		〃
8. 28	廃物利用のマリオネット製作		〃
8. 29	〃		〃

親子七宝焼教室

月 日	内 容	講 師	場 所
3. 14	七 宝 焼 製 作	下 田 和 史 氏	松 林 分 館
3. 15	〃	(福生六小教諭)	〃

子ども手芸教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 28	オリエンテーション	自己紹介、班分け、プログラム説明	担 当 職 員
7. 30	軍手人形づくり ①	マスコット人形(ブタ)	〃
7. 31	〃 ②	動 物(クマ)	〃
8. 1	〃 ③	人 形(女の子)	〃
8. 4	〃 反省会	〃 手芸教室の反省	〃

昭和56年

子ども指文字・手話教室(子ども会リーダー研修会)

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
12. 5	オリエンテーション	自己紹介とこれからの進め方	玉井恵子氏他
12. 12	手話の学習(Ⅰ)	名まえ、住所の表現のしかた	〃
12. 19	〃 (Ⅱ)	時間・場所・行為などの表現のしかた	〃
1. 9	〃 (Ⅲ)	好き・きらいなどの表現のしかた	〃
1. 23	〃 (Ⅳ)	思う・考える・美しいなどの表現のしかた	〃
1. 30	〃 (Ⅴ)	買物・数の数え方などの表現のしかた	〃
2. 13	〃 (Ⅵ)	人間の感情の表現のしかた	〃
2. 20	ゲームあそび	手話を使ったいろいろなゲーム	〃
2. 27	まとめ	障害者をどのように考えるか	〃

親と子のひろば

日 時	内 容	指 導 者	参加者
昭和56年10月4日(日) 午後2時～5時	竹馬作りと映画「手づくりあそびと 子どもの手」鑑賞	山本 信男氏	24人
昭和56年12月12日(土) 午後2時～4時30分	お手玉作り	中村千恵子氏 他	12人
昭和57年3月26日(金) 午前10時～正午	ペタペタ工作	松本加代子氏	33人

昭和57年

やさしいエレクトロニクス教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 9	テスターを作ろう	テスターの製作を通して、やさしい電子回路の仕組みとはたらきを学ぶ	岡田 紀夫氏 畑 俊弘氏
7. 15	〃		
7. 22	〃		
7. 29	やさしい電子回路	テスターを利用し、水位ブザーを作ってみよう	

夏休み工作教室・びんぼう工作

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 21	ステンドグラス	デザイン	松本加代子氏
8. 22	〃	型ぬき	
8. 23	〃	セロハンはり	

昭和58年

英会話でクッキー作り（子ども会リーダー研修会）

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 25	オリエンテーション	この教室の説明、自己紹介	高橋登志江氏
7. 28	カップケーキの作成	ケーキの作成と英会話	Mrs ワシントン
8. 1	シュウマイの作成	シュウマイの作成と英会話	Mrs プルトー
8. 4	ブラウニーの作成	ブラウニーの作成と英会話	の3人で毎回 実施
8. 8	カツドンの作成	カツドンの作成と英会話	
8. 11	スパゲティーミートソース	スパゲティーの作成と英会話	
8. 18	マカロニチーズ	マカロニチーズの作成と英会話	
8. 22	クッキーと和紙作り	クッキーと和紙作りと英会話	
8. 25	終了パーティ	ケーキを作り英会話	

子ども教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 28	オリエンテーション	班分け、班長、記録の選出、ゲーム	担 当 職 員
6. 11	たのしくあそぼう	仲間づくりと集団であそぶことのたのしさを体験する。基本的な室内ゲームを覚える。	担 当 職 員
25	たのしくあそぼう		担 当 職 員
7. 9	たのしくあそぼう		担 当 職 員
7. 23	外に出てあそぼう	おもいきり体を動かしてあそぶ、外あそびを覚える。	担 当 職 員
8. 6	〃		〃
13	キャンプを準備しよう	キャンプに向けて、うどんづくりの練習	〃
20	松林ナイトキャンプ	1泊2日のキャンプ、キャンプワーク、手打うどん、カレーライスづくり	斉藤明朗氏
21	〃		神蔵 誠氏
9. 3	自動車お面づくり	創作の期間	担 当 職 員
17		松林だれでもなんでも展に向けて、	担 当 職 員
9. 24	お面をつくろう	新聞紙を利用した、大型おめんを各人が作成、着色、展示した。	担 当 職 員
10. 1	お面をつくろう		担 当 職 員
8	お面をつくろう		担 当 職 員
15	お面をつくろう		担 当 職 員
11. 5	たんけんに出よう	多摩川川原に出かけたたんけんする。	担 当 職 員
12	〃	草花丘陵に出かけて、川原と丘陵を2日にわたってたんけんする。	斉藤明朗氏
19	〃		斉藤明朗氏
12. 3	自動車をつくる	自動車の設計図を書く。	斉藤明朗氏
17	たこづくり	たこをつくる。	斉藤明朗氏
24	〃	クリスマスのつどい	斉藤明朗氏
1. 14	自動車をつくる	自動車の設計図を描く 〃	斉藤明朗氏
21	自動車をつくる		斉藤明朗氏
2. 4	多摩川川原で		斉藤明朗氏
18	自動車をつくろう	古バイク、古自転車の解体	斉藤明朗氏
25	自動車をつくろう	古バイク、古自転車の解体	斉藤明朗氏
3. 3	自動車をつくろう	自動車車台の工作	斉藤明朗氏
10	自動車をつくろう	自動車車台の工作	斉藤明朗氏
17	自動車をつくろう	自動車車輪のすえつけ	斉藤明朗氏
24	自動車をつくろう	自動車完成、かに坂公園で試乗	斉藤明朗氏
31	お菓子をつくろう	クッキー、コーヒーゼリーづくり	斉藤明朗氏

おもしろ科学クラブ（青空教室）

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	会 場
7. 27	重さをくらべる	ものの重さとは何かを、実験を使って明らかにしていく	原島貞夫氏	松林分館
8. 3	重さをくらべる			〃
10	表面張力を調べる	表面張力の現象をさまざまな実験を通して明らかにし、表面張力の原理を理解する	福生2中教諭	〃
17	表面張力を調べる			〃
24	食品てんか物	コーラ等清涼飲料水を使って実験	担 当 職 員	〃

昭和59年

たんけん教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 28	オリエンテーション	説明、自己紹介	岡田 紀夫氏
5. 12	市内オリエンテーリング	市内でコンパスの使い方の練習	〃
6. 24	滝山オリエンテーリング	滝山 〃	〃
7. 14	キャンプ打合せ	キャンプ内容の説明	〃
7. 15	草花オリエンテーリング	草花でコンパスの使い方の練習	〃
7. 24	} たんけんキャンプ	キャンプを通して、野外での共同・協力のちからを養う	〃
7. 25			〃
10. 10	滝山じねんじょ探し	滝山丘陵でクリやじねんじょ探し	〃
10. 20	奥多摩たんけんⅠ打合せ	秋の奥多摩へ行くための事前準備	〃
10. 28	奥多摩たんけんⅠ	秋の高畑倉山・倉岳山へ行く	〃
11. 25	滝山の二次林たんけん	身近な二次林の観察	〃
2. 2	奥多摩たんけんⅡ打合せ	冬の奥多摩へ行くための事前準備	〃
2. 3	奥多摩たんけんⅡ	冬の棒ノ折山へ行く	〃
3. 16	ファミリーハイキング打合せ	子どもたちによる企画	〃
3. 24	〃	下見 〃 下見	〃
3. 27	〃	資料作り 〃 資料作り	〃
3. 31	〃	本番 親や仲間とのハイキング	〃

子ども会 リーダー研修会

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 15	オリエンテーション	研修全体の説明、自己紹介、ゲーム指導	斉藤明郎氏
22	オリエンテーリング	オリエンテーリングの方法、地図の見方、草花で実習	〃
29	20km徒歩ハイク	福生から奥多摩みたけ間21.6km徒歩ハイク	〃
8. 5	野外炊事実習	テントの組立実習、野外炊事実習	〃
11	キャンプ打合せ	キャンプ事前打ち合せ	〃
12～13	ワーク・キャンプ	奥多摩町宮川井キャンプ場でワーク・キャンプ	〃

昭和60年

ワイワイ子どもひろば「挑戦、なんでも遊び教室」

月 日	内 容	講 師
7. 14	自己紹介・すすめ方・1週間の生活・ゲーム	田村 光男氏(瑞穂中教諭)
7. 21	竹うまづくり	児島 宗一氏
8. 4	水デッポー、しのデッポーづくり	田村 光男氏
8. 14	手うちうどんづくり	村野 栄子氏
8. 18	子どもゲートボール I	河久保金蔵氏 同 上
8. 25	〃 II	
9. 1	〃 III	
9. 8	はん盒すいさん・ゲーム・竹馬遊び	子どもと職員で打合せ
9. 15	はん盒すいさん(カレーづくり)	田村 光男氏ほか
9. 22	ゲームとフォークダンス I	中森 章一氏
10. 6	〃 II	(フォークダンス愛好会)

子ども合唱教室

月 日	内 容	講 師
7. 13	自己紹介・1週間の生活・リトミック・教室紹介	小波津 隆氏(国立音大卒)
7. 20	発声練習、リトミック、曲の練習、楽典	〃
8. 4	(曲 目)	
8. 24	・歌えバンバン	
8. 31	・まっしろいところ	
9. 7	・グリーン・グリーン	
9. 14	・森の熊さん ・歌はともだち ・十五夜お月さん	
9. 15	親子はん盆すいさん(カレーづくり)	田村 光男氏ほか
9. 21	発表練習	小波津 隆氏
9. 27		
10. 7		

昭和61年

子どもアウトドア教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 7	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、ゲーム	担 当 職 員
6. 14	野外で遊ぼう	野外ゲームのいろいろ、班分け	
6. 28	カレーをつくろう	どのようにしてカレーをつくるのか	
7. 5	〃	班会議(役割分担等を話し合う)	久保山佳奈氏
7. 12	〃	福生公園でカレーライスづくり	久保山麻由氏
7. 19	さあ、キャンプだ	班会議(キャンプで何をするのか、役割)	
7. 26	テント・キャンプ	かに坂公園でテントをつかいキャンプ	
7. 27			石川 康弘氏
8. 1	好きなものをつくろう	班会議(何をつくりたいのか)	井上 孝氏
8. 8	〃	〃 (役割分担等を話し合う)	
8. 15	〃	福生公園で各班で決めたものをつくる	
8. 18	合同キャンプ準備	班会議(合同キャンプの打ち合わせ)	沢村 雅人氏
8. 20	合同キャンプ	合同キャンプに参加	
8. 21			
8. 22			
8. 29	反 省 会	表彰式、まとめ	

子どもはやし教室

回	日 時	内 容		指 導
1 / 5	4月28日(月) 以後毎週月曜日	小太鼓・大カン・踊り	・仁羽せりふ習得 ・打ち方の基礎練習	鍋一はやし連
6 / 10	6月9日(月) 以後毎週月曜日		・リズム・間のとり方練習 ・おどり全員の取組	〃
11 / 15	7月14日(月) 以後毎週月曜日	↓若干名は 「屋台」へ↓	・夏祭り参加練習 ・仁羽の完成	〃

合同キャンプ(五日市町青少年旅行村)

	8・20	8・21	8・22
6:30~7:00	開 村 式 11:40	朝 の つ ど い	
7:00~9:30		朝 食	
9:30~12:00		合同プログラム ①川で遊ぶ ②山で遊ぶ ③ものをつくる (昼食含む)	清 掃
12:00~13:00	昼 食	合同プログラム き も だ め し キャンプファイヤー	昼 食
13:00~16:00	自由プログラム		閉 村 式 13:00
16:00~19:00	夕 食		
19:00~21:30	合同プログラム き も だ め し	合同プログラム キャンプファイヤー	
21:30~22:00	反 省 会		



3館の子どもたちが集う合同キャンプ

実行委員会の手による59年の第2回子どもフェスティバルのポスター

みんなあつまれ

5月27日(日) AM 10:00 ~ PM 5:00

第2回
子どもフェスティバル

場所：松林会館

主催：子どもフェスティバル実行委員会

2. 青年と公民館

前節でみたとおり、公民館建設に多くの青年のサークル、そしてメンバーの力が結集して、その原動力になっていったわけであるが、ここでは公民館の青年教育の歩みと、青年達の動きを簡単ではあるが、たどってみたいと思う。

1. 青年教育の目指すもの

社会教育・公民館がその対象領域として青年をすえることは、昭和28年制定の青年学級振興法から明らかなように、主として中学卒業後に社会に出ている青年の学習の場を保障するということから始まっている。しかしながら、高校進学率が90%を越え、その上の短大、大学、各種学校等への進学率が40%を越える今日その使命はほとんど形骸化したといって良いであろう。

では、なぜ社会教育・公民館が青年にこだわって事業を続けるのであろうか。そこから始めたいと思う。

青年期の課題とは何か。

人間の発達を段階的に見る時に、青年期の発達の特徴として、種々言われるところであるが、自分を発見するということが上げられると思う。「自分とは何か」「自我の確立」等、自分自身をみつめ、主体的に生きていける力を獲得する時期こそ青年期と言えるであろう。その事は、何も自分一人の中に閉じこもってできるというものではなく、他者との関係の中で、反発したり、共感し合ったりする中で成しえることだと考えられる。青年教育の中で、仲間作りが言われる所以もこのことの大事さを考えてのことであろう。単なる仲良しグループではない、人間と人間がぶつかり合い、お互いに高め合って行ける関係を仲間（集団）に求めるということだ。

近年、青年期の延長＝モラトリアムとか、ピーターパンシンドロームなど様々に語られている。社会の中で一定の役割を担うことを逃げていた姿が浮かび上がってくるが、それを許してしまえる社会の豊かさというものもあると言わざるを得ない。また、青年の興味や関心が多様化していく中で、生き方とか人生とかを語ることがダサイという意識もあるだろう。俺は俺、おまえはおまえ、というような他者と一線を画し、相手を受け入れられない人間関係の狭さもあるだろう。その様な状況の中で、青年の持つエネルギーを期待し、受け入れ、発揮できる環境を用意していけることが、大切なことだと考える。

2. 公民館青年教育の流れ

昭和52年開館以前より社会教育係を主管に青年を対象とした事業は組まれてきた。おりしも青年団の崩壊と都市型サークルへの移行という流れの中で、社会教育においては、新たな青年の組織化とサークル運動に視野を置いていたように考えられる。公民館開館後、年を経ると共に青年のサークルが衰退してゆき、と共に、青年の事業に人が集まりにくいという状況が出てきた。その中で、公民館の青年教育も試行錯誤を重ねてきたといってよいであろう。ここで少し、開館後の青年の事業の流れを概観してみよう。

① 青年学級

当市に置ける青年学級は、昭和32年に日の目を見ることになるが、翌33年より英会話の習得と仲間作りを目指したものが実施され、公民館開館後も継続して行われてきた。その形態は年間を通しての仲間作りと学習で、その中に各種のレク活動を組み込んだものである。運営は参加者が中心になって、講師と担当者が関わりながら進めることになっている。

その後、58年人形劇、59年英会話、60年からは、中国語にその内容が変化している。

年度	内 容	実 施 期 間	回数	参加者数	講 師
52	英会話	6/5～10/30, 11/13～3/26	35	40	宮本 長治氏
53	〃	5/14～10/29 11/12～3/25	40	40	〃
54	〃	5/27～3/30	40	33	〃
55	〃	5/15～3/26	40	25	〃
56	〃	5/13～3/31	40	32	〃
57	〃	5/26～3/30	42	40	〃、Nicholas Hajuk氏
58	人形劇	9/28～2/29	20	18	大井 数雄氏
59	英会話	9/7～12/21	27	20	ミユキ ウェイド氏他
60	中国語	6/12～10/30	20	18	曾 紅氏
61	〃	6/9～9/8	14	26	〃

② 若い市民の講座

若い市民の講座は福生市青年団体連絡協議会（以下青連協と略す）との共催により実施しているものである。これは当初、その年の成人者向けに仲間作りとサークルへの参加を呼び掛けるためのものであったが、サークルの衰退と共に公民館主催のものに変わりつつある。

年度	内 容	期 間	回数	参加者数	主管サークル
52	仕事を通して 生き方を考える		10	14	土筆の会
	音楽講座	S 53,2/5～3/19	10	10	サークルCMS
	創作放送劇教室	S 53,2/4～4/8	10	12	サークルななよん
	フォークダンス	S 53,3/25～4/22	5	20	フォークダンス愛好会
	吹奏楽講習会	S 53,1/28～4/1	10	25	福生吹奏楽愛好会
53	障害者問題から 生き方を考える	S 53,8/19～11/18	11	16	サークルゆうかり
	レクリエーション	S 54,3/9～4/6	5	15	
54	陶芸教室	S 55,2/8～3/28	10	14	* 公民館松林分館
	レクリエーション	S 55,3/1～4/12	7	14	FRC
	吹奏楽講習会	S 55,4/13～6/22	10	15	福生吹奏楽愛好会
55	吹奏楽講習会	S 55,12/7～2/22	10	15	福生吹奏楽愛好会
	創作放送劇教室	S 56,1/24～4/4	10	20	サークルななよん
56	初心者ギター教室	S 56,9/30～3/31	20	21	* 公民館
	初心者手話教室	S 57,1/22～4/2	10	12	福手の会
	吹奏楽教室	S 57,1/23～3/6	6	2	福生吹奏楽愛好会
	ジャズダンス教室	S 57,1/25～3/29	10	15	ポップジャズダンスC
	創作放送劇教室	S 57,2/6～5/29	16	14	サークルななよん
	中級8ミリ映画教室	S 57,2/17～3/17	5	9	福生8ミリクラブ
	登山入門教室	S 57,2/21～3/14	4	11	山岳同人緑峰会
57	管楽器講習会	S 58,1/29～3/6	6	4	福生吹奏楽愛好会
	レタリング入門	S 58,2/3～3/31	10	11	* 公民館
	中級8ミリ映画教室	S 58,2/2～3/2	5	5	福生8ミリクラブ

	録音技術入門教室	S 58,2/26～ 5 / 5	10	12	サークルななよん
58	ギターコース	S 58,10/14～ 12/ 23	10	12	* 公民館
	影絵劇コース	S 58,9/17～ 11/ 13	12	12	サークルななよん
59	コピーライター教室	S 59,8/29～ 9 / 19	5	15	* 公民館
	初級手話講習会	S 59,10/12～ 3 / 29	23	15	福手の会
61	エアロビクス				
	ダンスサイズ教室	S 62,1/30～ 3 / 23	11	20	* 公民館

③ 青年団体リーダー研修会

主に、青連協加盟のメンバー、リーダー層を対象に、青連協との共催により実施している。その趣旨は「①地域で青年活動を行うサークル相互の交流 ②各単位サークル年間活動報告と来年度活動への展望 ③サークルに参加するひとりひとりが学習・文化活動を生活化する意義をつかむ」（『社会教育ふっさ』昭和51年度版）である。一泊二日の宿泊研修をメインに、事前の研修を何回か重ねている。また、昭和57年度は補助金、58年度は青年活動を展望する等、特定のテーマを設けて実施した。

昭和59年より公民館が主催に加わることはせず、青連協の主催に公民館が協力をするという形に変わってきている。

年度	日 程	*	内 容 等
52	S53 3 / 18～19	40	公民館開館をもとに、公民館の活用を共通項にすすめた
53	S54 3 / 17～18	25	講師 太田政男氏（大東文化大学）
54	S55 3 / 22～23	3	
55	S55 11 / 23～24	9	「青年のつどい」という名称で実施
56	S56 4 / 11～12	14	「春のサークル交流会」という名称で実施
	S57 3 / 21～22	13	
57	S58 3 / 6,13,20	10	補助金をテーマとし、あわせて社会教育についての基礎的
	26～27		学習を進めた 講師 宮岡一雄氏（元福生市補助金等調査 専門委員会委員長） 小野征夫氏（明治学院大学）
58	S59 3 / 12	6	オリエンテーション

14	6	公民館づくりと青年の活動 講師 村野雅義氏(元公民館利用者懇談会事務局長)
16	6	青年団と地域、サークル活動 講師 大野 聡氏(元青年団長)
19~20	6	他市の青年活動を知り、わが町の青年活動を展望する 講師 小川俊一氏(八王子サークル連絡会) 野沢久人氏(元公民館長)

*…参加人数 宿泊研修会場…昭和52~56年度は五日市青年の家、57年度は武蔵野青年の家、58年度は加美公会堂 その他は公民館。

④二十歳の集い(成人のつどい)及び、実行委員会

二十歳の集いは、毎年成人式後に行われる、成人者のための仲間作り、出会いの場である。そして、それを成人者自らが企画・運営していくための実行委員会が組織されている。実行委員会は毎年の成人者を対象に公民館が広報・ダイレクトメール等によって呼び掛けるものである。その狙いは、「(1)地域での新たな仲間作りの場 (2)青年の抱えている固有の課題を掘り起こし、考えていく場 (3)自らが成人することの意味を考え、自身にとらえ返す場 (4)地域のことに目を向けていける場 (5)二十歳の集いを主体的に取り組む中から、仲間と共に創造することの楽しさや困難さを体験すること、そして、それを乗り越え成長していくこと。」(『会館紀要』昭和58年度)と位置付けている。近年、実行委員のなりてが少なく、とりわけ昭和61年度は一人の実行委員も集まらず、この型式が限界にきてしまったことを示唆している。



年度	つ ど い			実行委員会	
	内 容	場 所	人数	期 間	人数
52	はたちの音楽会…実行委員長挨拶、吹奏楽演奏、フォークソング、宝くじ抽選会 はたちの広場…レコードコンサート、フォークソング、フォークダンス、模擬店 懇親会…「成人のつどい」反省と、今後の活動について	大ホール 第4,5集会室 第6集会所	50	11/27~19	13
53	実行委員長挨拶、フォークソング、宝くじ抽選会、成人のつどい記念作文発表 フォークダンスとゲーム、フォークソング 模擬店	大ホール 第4,5集会室	335	11/19~22	8
54	実行委員長挨拶、フォークソング、フォークダンスとゲーム、模擬店	第4,5集会室	50	11/28~16	5
55	フリートーキング、実行委員紹介、大友節子on STAGE、実行委員長挨拶、 レクダンス 立食形式	第4,5集会室	125	11/12~14	7
56	生バンド演奏、フリートーキング、実行委員紹介 立食形式 展示コーナー…私の生まれた日、なつかしのアルバム、記念写真コーナー 着付け直し、休憩コーナー	第4,5集会室 展示室 第6集会室	117	11/6~12	3
57	実行委員紹介、立食形式 談話コーナー お茶席	第4,5集会室 第3集会室 第6,7集会室	208	12/3~10	4
58	実行委員紹介、カラオケ大会、ウルトラクイズふっさ版 他 立食形式	第4,5集会室	286	12/15~9	16
59	柳家小勇独演会 立食形式 卒業アルバムコーナー 記念写真コーナー	第4,5集会室 展示室 玄関	200	12/5~6	4
60	抽選会、バンド演奏、ミス・ミスター成人式の選出、フィーリングカップル3対3 立食形式 記念写真コーナー	第4,5集会室 玄関	200	12/7~7	4
61	立食形式(司会、柳家小勇)	第4,5集会室	200	企画・運営公民館0	

⑤ その他の講座・教室

青年の興味・関心が多様化したとは先にも述べたが、それに対応しつつ、青年のあらたな組織化をねらい各種の講座・教室が実施されてきた。ここにも担当者のおもい、興味・関心が込められている。生き方・総合学習を目指した青春教室、青年講座。そして、とりわけ昭和60年度から実施されてきた「ロックバンドのためのサウンドクリエイイト講座」は中学・高校生の参加が目立ち、あらたな青年教育の可能性を示したといえよう。とはいえ、大部分の講座・教室が年度毎に切れてしまい、今一つ継続性に欠けた部分もあるだろう。この流れを簡単に見てみよう。

55年度 「青春教室」 青年自身の意識には、“何かに情熱を燃やしたい”“何でも語り合える仲間がほしい”というものが共通にあるのではと思う。ここでは、青年の個々の要求をもとにして、何でもやってみよう、という呼びかけのもとに実施した。

期 間	回数	参加者	講 師
S55, 9/6 ~ 56, 3/31		17	

内容 参加者の要求をそれぞれ汲み上げ、それをプログラム化していく過程で、個人個人の参加動機、もとめるものが、ある程度広がりを持つため、それをカバーする意味で活動を①学習 ②討論 ③読書会 ④out door活動、という四本柱に設定、メンバー内の中心者の意向も手伝い、「差別について」というテーマをメインにおき、学習、討論、読書会を行う。と同時に、種々の親睦会、合宿なども行いメンバー同士のつながりを形成する。

56年度 青年講座「歴史と人物」 幕末の激動の時代に生きた吉田松陰、彼の短い30年の生涯や彼の生きた時代状況を学びながら、それを今の自身に問い返していくことを目標に実施した。なお、準備会を2回持った。

S57, 1/7 ~ 4/8	14	7	伊藤正明氏
----------------	----	---	-------

内容 ①松陰の生涯 ②時代状況 ③同時代の思想家 ④松陰の思想とその変遷 ⑤獄中教育等

57年度 ミニコミ編集入門教室 “受け手”から“送り手”として自己表現をミニコミ作りの中から獲得、さらに他者との関わり（編集会議・取材など）を通して協調性・主体性を養う。

S57, 9/30~12/23	12	19	吉村千頼氏（平凡社『太陽』元デスク）
-----------------	----	----	--------------------

60年度 青年教室「スキー用具を科学する」 青年に人気のあるスポーツ「スキー」を取り上げ、用具の基礎知識、体力、技術にあった正しい選び方を学びながら若い人の仲間作りを目指し実施した。

S60, 11/7~12/19	7	12	相田光一氏（インストラクター）
-----------------	---	----	-----------------

内容…①オリエンテーション ②スキー板の特性1、2 スキー靴の特性1、2 ③ストックについて ④ビンディングについて

// ロックバンドのためのサウンドクリエイイト講座 ロックバンドの演奏技術の向上とバンド間の交流を図るなかで、青年が主体的に公民館に関わっていく機会として実施した。

S60, 10/2~12/18	10	33	長島弁蔵氏（アレンジャー）
-----------------	----	----	---------------

内容…①オリエンテーション ②器材とチューニング ③RHYTHM ④CHORD ⑤SCALE ⑥楽器別クリニック1~4 ⑦まとめ

61年度 ロックバンドのためのサウンドクリエイイト講座 青年が主体的に公民館に関わり、地域と交流する場として実施した。また、今年度はライブハウスUZUでの発表会を実施した。

S61, 8/4~9/14	10	17	長島弁蔵氏（アレンジャー）
---------------	----	----	---------------

内容…①オリエンテーション ②何を言いたいのか ③構成とリズム ④歌詞、テープの使い方 ⑤メロディとコード ⑥インプロヴィゼーション ⑦MTR録音1~3 ⑧発表会

3. 担当者の変遷

開館と同時に2人の職員が新規採用された。高橋一郎と金子である。高橋は音楽関係のサークル等から、側面的に青年に関わることとなる。金子は前任者松坂と共に青年教育を主に担当することになる。松坂は以前より青連協にかかわっており、昭和47年入職以来青年教育を担当しており、青連協との連絡・調整は松坂が主に担っていたと言ってよいであろう。昭和54年松林分館開館を機に伊東、高橋邦彦が新規採用で配属になる。高橋邦彦は松林分館で、昭和54年度に一本の青年向け講座を実施している。伊東は自然観察グループ等のサークル活動で青年を育成していたり、昭和59年度に2本の青年対象事業を担当している。昭和55年白梅分館開館を機に中根、名取が新規採用で入職。金子は白梅分館に異動になる。中根は金子に替わり青年教育の担当者となる。昭和59年課内異動があり、中根は松林、松坂は白梅へ移り、替わって、高橋、名取が公民館本館に配属になり、高橋が伊東と共に青年教育を担当する。昭和60年伊東が白梅に移り、川野が学務課より異動し、名取と共に青年教育を担当する。この頃より対象別の担当制の見直しがあり、出来るだけいろいろな分野を経験するような流れとなり、青年教育も複数の職員で担当するようになる。

青年教育担当者の流れ(図)

52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
金子			中根				高橋	川野	
松坂							伊東	名取	
		高橋						村田	能村

4. 公民館をめぐる青年たち

前節までは、公民館の主催事業を中心にすすめてきたが、ここでは公民館をめぐる青年群像に若干触れておくことにする。

① 福生市青年団体連絡協議会(青連協)

青連協は昭和43年5月、市内の三つのサークル(土筆の会、さんしょうの会、フォークダンス愛好会)が中心になり青年団を交え結成されている。上げ潮の勢いのサークルと衰退を迎える青年団との間には、運営をめぐるしばしば対立があった。その後、青年団は解散し、青連協は福生の地域のサークルの連合体として、多くの青年サークルを結集し、社会教育関係団体



に認定になっている。その目的は、各サークル相互の連絡、連携、協力を通して、相互の育成、推進をはかりつつ、青年として自らが向上しながら、広く地域の学習・文化活動の振興、推進を目指すと言うものである。

青連協は公民館建設運動、そして開館後も利用者懇談会の中心的役割を担っていた。活動には毎週の定例会を持ち、相互の情報交換を行っている。また、サークル対抗スポーツ大会、公民館との共催で、リーダー研修会、若い市民の講座、また、機関誌等の発行を行っている。

青連協の活動の基盤は何と言っても、その加盟サークルの活動が質、量ともに充実しているかいないかによるところが大きい。しかしながら、中心メンバーの結婚・出産等、ライフステージの変化と共に

そのエネルギーは失われつつある。また、サークル活動自体が多様化し、目的的になるにしたがい、「青年の」という修飾語を付ける意味を失いかけているのだろうか。それは青年のサークルにとっては、どうしようもないことなのかもしれない。また、公民館が新たなサークルを育て、青年を結集できなかった部分もあるだろう。けれども、活動の中で培った人間関係が福生の地で豊かに醗酵しているに違いない。年月を重ねる中で、公民館を、福生市を支える力になるであろうし、新たな、青年活動の流れが生まれることを願っている。

② 子供の事業と青年

子供の事業については公民館開館以前より社会教育係において実施されてきたが、その事業の子供達が、今、青年と成長し、公民館に関わっている。それはほんの一握りの数だけれども、子供から青年へと成長する時期を公民館（担当者）が温かく、また厳しく見守っていたからに違いない。とりわけ子供の事業において、青年に、年齢に応じた役割を与え、主体的に関われる力を育ててきたと言ってよいだろう。

また、公民館とはまったく縁の無かった青年達が、子供の事業の講師集団として仲間と手を結びながら協力をしてくれていることも押さえておかなければならないだろう。

3. 婦人と公民館

1. ネットワークの時代へ —— 女たちの歩みはつづく ——

公民館の10年は女性の10年でもありました。

自主グループについて見てみると、昭和52年の開館以来、数多くの自主グループが誕生し、現在では170もの団体が公民館を利用し、活動しています。そしてそのほとんどが女性中心のグループです。また、主催事業の参加者の多くは女性が占めています。まさに女性に支えられた公民館の10年であったかもしれません。公民館ができた頃は、主催事業をきっかけにして自主グループが活動を始めました。女性の自主グループ第1号は、昭和53年に発足した「木の実会」です。最近では、主催事業とは直接関係なく、公民館活動を伝え聞いた女性たちが「私たちも」というように、自ら公民館を拠点として活動することを希望して公民館を訪れるようになりました。公民館での活動が地域に広がっていることがうかがえます。

女性を対象とした主催事業についても、開館当時は2講座だけでしたが、ここ数年は年に12～13講座も開設されています。また、担当する職員も初めの頃は1人だけでしたが、昭和54年に松林分館が、翌55年には白梅分館ができ、担当職員も全員へと広がっていきました。それに伴って事業もバラエティに富んできました。子育て真最中のお母さんに保育室事業を、専業主婦だけでなく、働く女性をまきこんでの夜間の講座等々です。

「国連婦人の10年」の中間年にあたる昭和55年は、福生の女性対象事業の歴史の中で、ひとつの転換期となりました。公民館での学習の中で婦人問題がテーマになったことは大きな変化です。「国連婦人の10年」の社会の動きに歩調をあわせるように、福生市においても婦人問題が語られるようになりました。また、事業の開設時間も、専業主婦を対象にした昼間に実施するだけでなく、夜間の講座も実施されるようになりました。夜間の講座は主として婦人問題講座ですが、昭和55年に10人の参加者でスタートしたこの講座も、昭和62年には48人（うち男性4人）の参加者で賑わうほどになりました。このことは、市民の婦人問題に対する関心が高まり、着実に広がっていることを物語っていますし、学習内容も婦人問題とは何かという学習から婦人問題解決のための学習、実践へと変化してきています。そして、公民館での出会いをきっかけに婦人問題を学び行動するグループが生まれました。

このように10年を経て女性たちの横のつながりができはじめ、まさしく女性の連帯（ネットワーク）の時代の倒来を感じさせます。男性も女性も、みんなが生き生きと暮らせる社会をつくろうと、今福生の女性たちは動き出しています。

2. 主催事業10年のあゆみ

公民館が開館した昭和52年は、「婦人英会話教室」と婦人学級「幼児の成長・発達を集団と家庭から考える」が実施されました。「婦人英会話教室」は、公民館ができる以前の昭和50年からスタートしていた事業です。日米親善の一環として、横田基地の将校夫人のボランティア活動によって支えられてきました。日常英会話の習得だけでなく様々な文化交流を行っていくようになります。この教室は継続して毎年実施され、「親善婦人文化交流事業」と改めて昭和58年まで行い、その後は自主グループとして独立し、自主的な活動をはじめようになりました。

翌昭和53年度では、『生命』や『くらし』に焦点をあてた事業が開設されています。内容的には、妊娠、出産に関わることやクスリの副作用などがテーマになっています。市民大学講座「婦人の講座」では出産の映写を上映したりしました。

婦人学級Aコース「生命の力とくらしの医療」

回	月・日	主 題	内 容	備 考
1	6/ 7	オリエンテーション	学級の進め方・プログラム紹介・保育室の利用について etc	職員の説明及び話し合い
2	6/14	生命の誕生 (妊娠・出産)	私の出産体験から準備・出産問題と医療及び母体における胎児の発達	山田美津子氏 (準備・出産協会)
3	6/21	妊娠・出産の実態	参加助産婦さんの実態報告と各自の出産体験の交換	話し合い
4	6/28	クスリの副作用Ⅰ	おとなのための健康を考える	田村豊幸氏 (日大薬理学教室)
5	7/ 5	都立 福生保健所の活動	保健所活動の概要と私の保健婦活動について	前田保健所長& 最上保健婦
6	7/12	中間整理	今までの整理とこれからくらしの中での健康活動	話し合い
7	7/19	クスリの副作用Ⅱ	こどものための健康を考える	田村豊幸氏 (日大薬理学教室)
8	7/26	福生市の医療・保健 計画について	市の医・保計画の紹介 これまでの市の保健活動	影山愛子氏 (市健康管理係長)
9	8/16	精神衛生Ⅰ	真夏及び夏休み等のため2週お休み 患者との病院での諸活動 精神衛生概要と精神障害分類	野島 正氏 (海道病院看護師)
10	8/23	精神衛生Ⅱ	私達の精神の健康とは何か	野島 正氏 問題提起と話し合い
11	9/ 6	ま と め	これまでのまとめ整理と今後の活動にむけて	話し合い

昭和54年度になると、女性の“生き方”をテーマにした事業が出てきます。婦人学級「子供の独立以後の私の生き方」等がそうです。また、この年は松林分館が開館した年で、松林分館で実施された「婦人文章教室」は、毎日の生活におし流されがちな婦人が、書くことによって自分と自分の生活を見つめ直すことをねらいとしています。この教室もその意味で、女性の生き方を問う内容といえます。「婦人文章教室」は、その後昭和60年度まで継続して実施されました。また、「家庭教育学級」が開設されたのもこの年です。若い母親を対象に、子育ての不安や混乱の中で乳幼児をどう育てていくのかということや、子どもの生活を見直し、家庭、地域における親の役割を考える場として開設されています。この学級では講座に先立ち、市民と共に学習プログラムをつくる準備会がもうけられました。

新たな動きとしては、『仮称福生市婦人グループ連絡会』ができ、地域婦人のつながりと学習グループ活動の広がりに向けて活動が始まったことがあげられます。

婦人文章教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10/ 5	文章を書くというのとはどういうことか	文章を書くことの意味	平 島 美 也 子 氏 (「多摩のおんな」著者)
10/12	文章をどう書くか	書く経験	
10/19	〃	題材限定	
10/24	〃	読み手意識	
11/ 2	〃	材料選び	
11/ 9	文章をどう処理するか	下書き・推敲	

昭和54年度までは、年間2～4本程度実施されていた婦人の事業が、昭和55年度に入ると、一気に9講座に増加しました。その原因のひとつは、5月に白梅分館が開館し、ようやく3館体制が整い、各館独自の主催事業づくりに力が入ったこともあるでしょう。そして、昭和55年は『国際婦人の10年』の中間年にあたっていたことも忘れてはならないことです。社会的にも婦人に光が当たることの多い年だったのです。この年に初めて公民館で『婦人問題』をテーマにした講座が開設されました。婦人問題講座「新たな婦人の生き方をめぐって」や婦人学級「女の一生を考える」等がそうです。これまでは婦人がかかえる問題を『婦人問題』としてとらえた事業はありませんでした。婦人問題が公民館における婦人の学習として位置づけられた年といえます。

また、「婦人問題講座」を午後7時から9時という夜間に実施したことも画期的なことです。これまで、婦人対象の事業は全て午前や午後に行われており、婦人は夜出られない、というタブーを破ったことになるのです。このことは、働く婦人層にも門戸を開けたことになりました。その後、夜間の講座が年に1～2講座実施されていきます。

婦人問題講座「新たな婦人の生き方をめぐって（夜間）」

月 日	内 容	講 師
10. 31	オリエンテーション	
11. 7	婦人労働とその周辺	来 檜 琴 子 氏 (婦人問題研究家)
11. 14	共働きと家庭	
11. 21	ライフサイクルの変化と婦人の自立	富 永 静 枝 氏 (白梅短大助教授)
11. 28	婦人労働の現状	
12. 5	婦人が働く条件づくりをめぐって	

昭和56年になると、婦人問題をストレートに出すのではなく、文学や歴史の面からとらえる事業が出てきます。小説に描かれた主人公の生き方を通して女性の生き方を考えようとした婦人学級「文学にみる女性」や女性講座「歴史に学ぶ」等があげられます。この頃は三多摩の他市においても文学や歴史を素材に女性の生き方を考える事業が行われていました。

また、家庭教育学級のプログラムの中にも婦人問題がテーマとして入るようになりました。家庭教育学級「子育てと親の生き方を求めて」では、乳幼児をかかえる母親たちが、物理的にも心理的にも、母と子が拘束しあって生活しており、その中で「子どもの発達のゆがみ」や大人の「かかわり」の弱さが生まれている。そうした主婦の状況を明らかにすることをねらいとしています。この学級でも講座に先立ち、準備会がもたれています。

昭和57年は、これまでの事業を内容的に深めていった年です。

市民と共に学習要求を学習のプログラムに組みたてていく準備会というスタイルが重視され家庭教育学級だけでなく婦人学級にも広まっていったのもこの頃です。婦人学級「女性がのびやかに生きるために」では、夜間の準備会ももたれました。

また、歴史から女性の問題を考えるというやり方をより具体的に実施したのが婦人学級「女性史を学ぶ」です。この講座では自分史を書く作業をふくめ、婦人解放、自己解放への道をさぐる婦人問題としての歴史を学ぶこと等を目標にしています。この講座は女性史講座として継

続して実施されています。

婦人学級「女性史を学ぶ」

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2	私たちの年表をつくろう	自分史のための年表作成	担 当 職 員
2. 9	〃	〃	〃
2. 16	〃	〃	〃
2. 23	〃	〃	〃
3. 2	近代女性史、祖母の歴史	幕末から明治に生きた女たち	早 川 紀 代 氏 (女性史研究者)
3. 9	〃	明治、大正期の婦人運動	〃
3. 16	〃	〃	〃
3. 23	近代女性史、母の歴史	昭和初期から戦後にかけての、	〃
3. 30	〃	婦人解放運動の歴史を学ぶ	〃

昭和58年は、婦人対象の事業が飛躍的に増加した年で、計13講座も実施されました。これは各館4～5講座という数です。内容的にも、女性の問題を法律の面からとらえた婦人学級「女をめぐる法(法女性学)」や健康に関する問題をあつかった婦人学級「健康に生きるために」等、バラエティに富んでいます。

女性講座「女性史入門」

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 17	はじめに	女性史を学ぶにあたって	折 井 美 耶 子 氏 (女性史研究者)
10. 24	原始時代から古代国家の成立まで	ひみこから古事記・万葉の時代	
10. 31	古代の女性	源氏物語、今昔物語の時代	〃
11. 7	中世の女性	政子から淀君までの時代	〃
11. 21	近世の女性	近松の時代、女大学の時代	〃
11. 28	明治維新	女性にとっての明治維新とは	〃
12. 5	憲法、民法の制定	家族制度の中の女性	〃
12. 12	資本主義の成立	富国強兵と女性	〃

1. 9	大正デモクラシー	大正デモクラシーと青鞥運動	折井美耶子氏
1. 23	新しい女たちの運動	婦人参政権と女性	〃
1. 30	昭和恐慌	昭和恐慌下の女性たち	〃
2. 6	レポート発表	「戦前の農村婦人」 「私の戦争体験」	
2. 13	ファシズムの時代	戦時下の女性たち	折井美耶子氏
2. 20	レポート発表	「五日市憲法」「片倉製糸」	
2. 27	戦後民主主義	戦後民主主義と女性	折井美耶子氏
3. 5	高度経済成長	草の根の婦人運動	〃
3. 19	現代の女性	国際婦人年がもたらしたもの	〃
3. 26	おわりに	これからの女性の生き方	〃
3. 30	消えゆく絹の道を歩く	八王子から町田の絹の道を歩く	新井勝紘氏 (福生市文化財保護審議会委員)

昭和59年は、女性講座「女が働くこと」や婦人問題講座「女が生き生きと働くために」や婦人学級「高齢化社会と女の老後」などのように、内容的には、女性が働くことと子育て、老後の問題をメインにした事業が行われるようになりました。また、「絵本を考える講座」なども開設されています。さらに、この年から婦人学級「しらうめイブニングひろば」が夜間に毎年実施されるようになりました。このひろばは、30代後半から70代までの幅広い年齢層の女性が参加しており、身近なつながりの場を求めて実施されています。

職員全員が、保育室併設の学級・講座をうけもつことになったのもこの年です。幼い子どもをもつお母さんの教室が充実してきました。

婦人問題講座「女が生き生きと働くために」(夜間)

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 28	婦人労働の現状 1	参加者それぞれのおかれている状況を出しあう。ライフサイクルの変化と婦人労働	富永静枝氏 (白梅短期大学教授)
3. 7	婦人労働の現状 2	パート労働の現状をふまえ、なぜパートなのか、その背景をさぐる	
3. 14	仕事と家庭と子育て	家庭、子育てをとおして、働くことを考えていく	
3. 21	3回を振り返って	3回の講義、話し合いをふりかえる	
3. 28	真の男女平等をめざして	差別撤廃条約、雇用機会均等法を通し、未来をみすえながら婦人問題を考える	

昭和60年は、国際婦人の10年最終年の社会の動きと同様、公民館での市民（女性）の活動もピークを迎えていました。福生市の『婦人行動計画』に対する関心が最も高まった年でした。事業では婦人問題講座「差別撤廃条約とわたしたち」が行われました。この講座は、昭和57年の『公民館のつどい』以後、もっと話しあいたいという女性達の手によって、自主的に「女のつどい」として年に1～2回行われてきましたが、その中心的なメンバーと共に、講座の学習プログラムが煮詰められていった経過があります。講座終了後は参加者の中の有志によって『福生婦人問題連絡会』が発足しました。個人や団体をこえて婦人問題を考えていこうという目的でつくられたのです。

この頃になると婦人問題に対する市民の意識向上は5年前と比べて著しく、婦人問題とは何か、という学習から、婦人問題解決のための学習へと変化してきました。

また、この年から毎年、家庭教育学級「手づくり絵本を創る」が実施されるようになりました。ここでは子どもの成長を絵本のテーマにすることによって、自らの子育てを見直すことをねらいとしています。

事業に様々な工夫が出てきました。

婦人問題講座「差別撤廃条約とわたしたち」（夜間）

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 9	準 備 会	どんなことを学習したいか	
5. 16	〃		
5. 23	差別撤廃条約とは何か	差別撤廃条約とはどういうものか	中島 通子氏 (弁 護 士)
5. 30	〃	前回の講義をうけての話しあい	
6. 6	条約から学んでほしい事	平和と男女平等、性による分業の 変革、平等権を社会権として	金城 清子氏 (東京家政大 教授)
6. 13	〃	前回の講義をうけての話しあい	〃
6. 20	ま と め	これからの活動について	

婦人問題講座「高齢化社会と女の自立」（夜間）

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 26	高齢化社会とは	自己紹介、高齢化社会と女の問題	谷内真理子氏
3. 5	看とりは女だけなのか	看とりの現状とこれからの課題 差別撤廃条約 ILO など世界の動き	富永 静枝氏
3. 12	働きつづけることと 老人介護	働きつづけながら、介護をしている女の 現実、よりよい労働と介護のあり方 をめぐって	沖藤 典子氏
3. 19	公的介護、地域ぐるみ での介護	多様化する高齢化社会の中で、公的介 護、地域ぐるみでの介護等を考える	谷内真理子氏
3. 26	地域の実情とこれから を考える	福生における公的介護等の実状を認識 し、あらためて、高齢化社会と私たち の生き方を考える	〃

公民館開館10周年にあたる昭和61年度は、内容的に、実践を深めていった年です。特に保育室併設の学級では、子どもをあずけることを母親の学習にしていくことをめざしてとりくんだ1年でした。その成果は『昭和61年度会館紀要』に、保育室に関する実践が数多く出されていることからもうかがえます。多種多様な市民要求をどううけとめ学習にしていくかを模索した年でした。

婦人問題は「私」の問題

—— 仲間の中で考えた、公民館での7年間 ——

黒木 まゆ美

公民館へ初めて足を運んだ7年前（S. 56）は、生まれたての長女の育児に孤軍奮闘の真最中だった。乳児を抱えた母親にとっての核家族の暮らしは、人とのつながりを絶たれたに等しく、松林分館の「だれでもなんでも展」をきっかけに、吸いこまれるように公民館保育室へ子どもを預けて学習するサークルに参加した。『……子どもはそれなりにかわいいし、夫は理解がある。なのに心の中は空しい。子育てに慣れるにつれ、世の中に取り残されたような気持ちになる。』これは初めて受講した家庭教育学級で書いた作文の一部だ。講座では『今すぐ再就職の準備を始めなさい。なぜなら主婦の再就職は困難で、大方の就職先であるパートタイマーは割が悪く、その中途半端な働き方が女性全体の賃金の低さの原因にもなっている。』とT先生は語った。そのとき私は専業主婦。子育て一段落後にまた働けばいいと軽く考えていた。しかし再就職どころか日々の暮らしに流され、考えるゆとりすら無くしているのが現実だった。T先生の話から、自分の甘さを認識させられ、衝撃を受けた。

その後、前立川社会教育会館主催の「集いましょう 三多摩の女たち」に参加して私の目はさらに社会へ開いた。そこでは50人の女性が、性差別、女の自立、反戦などさまざまなテーマでいきいきと話していた。男たちも子どもをあやしながら聞いている光景に、その日初めて子どもを夫に預けてきた私は「夫も連れてくればよかった」と思った。

その頃公民館では保育室の存続をめくりもめていた。結局“子育て期の婦人の学習権を保証する”という意味をもった「公民館保育室」が、“幼児教育”を目的とした「幼児室」に変わった。そこで保育室を考え直そうと「福生市公民館保育室を考える会」が結成され、それまで以上に公民館に積極的に関わるようになった。「考える会」の3人が呼びかけた「幼児室利用のお母さん、話しませんか」の集いをきっかけに、学習会が積み重ねられた。公運審の「公民館保育室についての答申」を読み、保育室の変遷をたどった。答申にうたわれている“自己の確立”“主体的市民存在”とは何なのか、私達の望む公民館とはどういうものかと白熱の討論が続いた末「私達が今していることが、市民として主体的に動くということなんだ」という結論に達した時の感動は忘れられない。「保育室問題はまさしく女の問題」との認識から「考える会」でも女の問題を話し合うことが多くなった。

その頃私は再就職を決めた。子どもを産むために仕事をやめてから、夫との関係でちょっと

説明できないいごちの悪さを感じていたからだ。私が日常的に家にいるという状況下では、夫との間に平等の関係を保ち続けることは至難の技だった。私はとどこおりなく家事を終えなければという脅迫観念にかられるようになっていた。このままでは自分が自分らしく生きられない、そんな気持ちから再就職を決意した。「いごちの悪さ」の正体は自分で一円も稼げぬことの悔しさ、夫の給料袋をあてにし、自分は家の中でヌクヌク暮らしていることの罪悪感だ。夫は私に対して奢ったような態度は全く見せなかったが、それだけに自分が情なかった。

そうして働き始めた忙しい生活の中で、夫が育児に主体的に関わり、会話の量もぐんと増えた。しかもお互い率直にものを言える関係になっていった。さらに私を試すような事件がもち上がった。夫が突然会社をやめたのだ。だが子どもにもっと関わりたいという夫の気持ちは理解できた。「私も働いているから何とかなる。自分のやりたいことが見つかるまで子どもとじっくりつきあって」と心の底から言えた。半年後には私の職場である遺跡発掘の現場に夫も就職した。2人で保育園へ子ども達を送り、夕方また2人でお迎えに行き、以前夫が一人で稼いでいた分を2人で稼ぐ。夫と私が全く同じ立場で職場と家庭に関わり、改めて見えてくることもずいぶんあった。

「公民館のつどい」(S. 57)をきっかけに継続して開かれるようになった「女のつどい」の事例発表で、前述のいきさつを話した。私達の家庭の中の変化は「女のつどい」や「考える会」の仲間に助言を求め、そのつど仲間と考えながら出してきた結論だ。激しいケンカもしたが、いつの間にか夫も、婦人問題講座に参加したり、保育を担当したりするようになっていた。

「女のつどい」のメンバーを中心に婦人行動計画策定要求を核に「福生婦人問題連絡会」が発足し、婦人問題講座の準備会にも関わっている。この7年の間に「差別撤廃条約」批准、国連婦人の10年終了、「均等法」施行など時代は変化している。婦人問題のテーマも刻々変化する。いつでも「金太郎アメ」だった仲間の顔ぶれも、ここへ来てちょっと変化が見られる。しなやかに、したたかに女達のつどいは続く。

	52 年	53 年	54 年	55 年	56 年	57 年	58 年	59 年	60 年	61 年
本	婦人英会話教室 婦人学級「幼児の成長・発達を単位と家庭から考える」	婦人学級Aコース 「生命の力とくらしの医療」 婦人学級Bコース 「料理の起源と食事の文化」 市民大学講座「婦人の講座」	日米親善文化交流 「子供の独立以後の私の生き方」	親善婦人文化交流事業 「幼児の成長・発達を考える教室」	日米婦人文化交流事業	婦人グループ交流会 婦人学級「50代の婦人のつどい」 若いお母さんのための幼児教育学級 「幼児の成長・発達を支えていくために」	婦人グループ交流会 母親研修会	女性講座「女が働くこと」 婦人学級「子育てと女性の生き方を考えよう」 婦人学級「主婦一再出発への設計図」 絵本を考える	「子育てはだれのもの」 婦人学級「地域の中で子育てを」 婦人学級「育児観の変遷をたどる」 婦人問題講座「差別撤廃条約とわたしたち」 幼児教育学級「みんな考えてよう、みんなの子育て」	「共に育ちあうために」 「みんなですつくる保育室」 「子どものあそびを考える」
							婦人のための市民講座A「子どもの成長を願って」 婦人のための市民講座B「女性のこれからの生活と老後にそなえて」			

52 年	53 年	54 年	55 年	56 年	57 年	58 年	59 年	60 年	61 年
		婦人文章教室	婦人問題講座 「新たな婦人の生き 方をめぐって」	婦人学校 「女性の生き方を求 めて」	「新たな婦人の生き 方をめぐって」	「女をめぐる法」	「女が生き生きと働 くために」	「高齢化社会と女の 自立」	
		家庭教育学校		「子育てと親の生き 方を求めて」					「共に育ちあう子育 てをめざして」
松					婦人学校 「女性史を学ぶ」	「女性史、同時代を 生きる」	女 性 史 「自分史を通して婦 人の歩みを学ぶ」	家庭教育学校 「手づくり絵本を創 る」	女性史講座 「手づくり絵本」
林									

52 年	53 年	54 年	55 年	56 年	57 年	58 年	59 年	60 年	61 年
白			家庭教育学校 「子どもの生活と親 の役割」	ヤングミセスの教室	婦人学校 「女性がのびやかに 生きるために」	婦人学校 「女性史入門」	婦人学校 「高齢化社会と女の 老後」 お母さんのための教 育講座	幼児教育学校 児童文学を考える オモチャを考える	
			婦人学校 「女の一生を考える」	婦人学校 「文学にみる女性」 女性講座 「歴史に学ぶ」					
梅							婦人学校 「しらうめイブニン グひろば」		

学級、講座にとどまらず、講演会、映画会、つどい、交流会、研修会、

開館当時の昭和52年、53年は、市民大学講座を中心に事業が展開されていきました。

その後、その時代に間に合おうと奮闘する

最近では市民の学習要求が多様化、専門化となっている。

成人対象の事業といっても男性の参加が少ないことは否めず、男性の参加を促す工夫が必要である。

公民館へ行ってみたいとなるよう、参加していただくような魅力ある事業を行

2. 主催事業10年のあゆみ

昭和52年の6月に公民館が市民の学習文化活動の拠点として開館しましたが、わずか9ヶ月の間に6つもの成人対象の講座が実施されています。この年の事業の特色は、実施された事業のほとんどが、その後ずっと継続されて行われていることです。市民大学講座「郷土史」や「自然観察会」「16ミリ発声映写機操作講習会」等は現在も続いています。市民の強い支持を得ている事業といえるかもしれません。また、申請市民大学講座というかたちで「女を考える講座」が行われたことも興味深いことです。

市民大学講座「郷土史」

月 日	内 容	発 表 者	助 言 者
2. 26	郷土史専門講座で何を学ぶか		
3. 12	地域史の研究をする人のために	北原 進先生	北原 進立正大教授
3. 26	清岩院中興開基について	田村 元昭	〃
4. 9	熊川、下草花村境界争いについて	高崎 勇作	〃
4. 16	明治初期の行政区の変遷について	立川 愛雄	〃
4. 23	元禄年間の熊川村検地帳について	峰岸 秀雄	〃
5. 7	玉川における御用鮎運上について	宮田 満	〃

申請市民大学講座「女を考える講座」

回	月 日	テ ー マ	内 容	講 師 及 び レポーター
1	2 / 4	講座のすすめ方	自己紹介・プログラム確認・目的・方法について	全体討議
2	2 / 11	仕事・労働について	女が働きやすい職場とは	レポート T
3	2 / 18	共 働 き	男女の役割分担・家事育児	レポート S
4	2 / 25	家庭のあり方	理想の家庭像・夫婦親子関係	レポート K
5	3 / 4	女たちの動き	さまざまな生き方をしている女たち	寺崎 あきこ (フリーライター)
6	3 / 11	女のからだ	からだの生理と機能・妊娠と出産	山田 美津子 (翻 訳 者)
7	3 / 18	ま と め	全体の感想・今後の方向	全体討議

昭和53年度は子どもの遊びや文化、学校教育を考える講座が新たに実施されました。またこの年に開設された市民大学講座「万葉集を読む」は以後毎年行われ、現在に至っています。

その他にも「アコーディオン入門講座」や「企画リクエストサークル」、市民大学講座「音楽」が行われる等、音楽関係の事業も目立っています。

子どもの遊びを考える講座

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 29	野外活動の方法	夏の活動を豊かにするために野外活動のとらえ方、すすめ方	草 一 平 (全日本レクリエーション リーダー会議常任理事)
7. 6	今日の子どもの めぐる状況	遊べない子どもがふえているといわれているが、子どもの遊びや文化の現状を考えながら今の子どもたちの現状を明らかにする。	上 田 融 (ジャーナリスト)
7. 13	子どもの発達と あそび	子どもにとって遊びがどんな役割をもっているのか。	酒 包 一 雄 (教育研究所)
7. 16	野外活動	川井キャンプ場でデーキャンプ実習	
7. 20	子どもの自主的 組織をめざして	夏休みに子どもたちの生き生きした活動を創り出すために羽村の青空学校の経験に学ぶ	大 崎 玄 (教 員)
7. 27	地域子ども会の 指導をめぐる	子どもたちが主人公になる子ども会運営は	溝 渕 幸太郎

学校教育を考える講座

月 日	内 容	講 師
3. 2	かかえている問題を出しあおう 第1回作文	白井 慎 (法大教授)
9	学校教育の問題はどこからきているのか I	〃
16	学校で子どもたちはどう育つのか—学力をめぐる	〃
23	親と子にとって学校とは 第2回作文	〃
30	日本の学校教育と世界	清川 輝 (NHK教育テレビ)

市民大学講座「万葉集を読む」

月 日	テ ー マ	内 容
10. 19	万葉集の成立過程	万葉集の成立過程とその歴史的背景をさぐりその文学的位置をさぐる。時代区分、万葉集の構造等
26	初期万葉集＝額田王とその周辺	万葉集初期の作品を額田王とその周辺を考えていきます。
11. 9	白鳳万葉 人麿呂の時代	持統に始まり持統崩御とともに終った人麿呂の作歌を通して、人麿呂の時代を通して白鳳を。
16	平城万葉 赤人の周辺	聖武朝の宮廷歌人、赤人、黒人の作品を通して。
22	平城万葉 憶良・旅人とその周辺	憶良、旅人の作品を中心に
30	天平万葉 大伴家持	万葉集最後の歌人大伴家持とその周辺から天平万葉の特色を明らかに
12. 7	東歌 防人歌	作者不詳という防人や東人の歌がある。万葉にうたわれた農民の心をさぐります。

昭和54年度は、大人を対象にした「子ども会リーダー研修会」が初めて行われました。子ども会をすすめるための視点や実技上必要な知識を身につけることを目標にしています。この年にできた松林分館では「松林ホームシアター」という名称で、毎月映画会が行われるようになりました。また、社会教育を内容とした市民大学講座が始まったのもこの年です。

子ども会リーダー研修会

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 5	地域の子どもたちはいま	子どもの現状	東 隆 寿 氏
7. 12	子どもの発達とあそび	子どもの発達と遊びの関係	南 里 悦 史 氏
7. 16	ゲーム指導のこつ	ゲーム指導の実際	二本松はじめ氏
7. 19	地域子ども会の指導をめぐる	子ども会の指導とは何か、子どもが主人公に	溝 渕 幸 太 郎 氏
7. 21 22	キャンプの実際	野外活動の実際	

松林ホーム・シアター

上 映 日	上 映 作 品	上 映 時 間 及 び 入 場 者
6月9日(土)	サンダカン八番娼館 望郷	午後7時 90人
7月29日(日)	二十四の瞳	午前10時・午後2時 2回 80人
8月29日(水)	象のハナ子	午後1時30分 58人
10月6日(土)	家 族	午後3時・7時 2回 38人
1月26日(土)	長くつしたのピッピ	午後2時・4時30分 2回 190人
2月23日(土)	ゆかいなピエロとにげ出した六匹の熊	午後2時・3時30分 2回 250人
3月22日(土)	ピッピの新しい冒険	午後2時・4時 2回 150人
3月29日(土)	幸福の黄色いハンカチ	午後7時 54人

昭和55年は白梅分館がオープンした年です。この年から白梅分館でも白梅親子映画会が行われるようになりました。また、成人を対象とした白梅名画劇場も行われました。そして前年から動いていた市民の音楽関係団体が、この年に音楽愛好者連絡会としてスタートしていきます。以後は市民音楽祭へのとりくみなど、活発な音楽活動が展開されていきます。さらに市民大学講座でも「自然」「法律」をテーマにしたものがこの年から始まりました。松林分館では「利用者交流会」が開かれるようになり、「だれでもなんでも展」がスタートしたのもこの年です。

「みんなでなんでも展」（だれでもなんでも展）

9月12日	「みんなでなんでも展」をすすめる会発足、展のイメージ検討。
20日	「展」のイメージづくりの検討
27日	「出展作品、手づくり作品」とは何かを検討。
10月4日	当日に向けてのプログラム検討、作品の応募状況報告。
9日	利用サークルの出展作品の報告、準備会主催の模擬店の決定。
18日	当日の役割分担の決定と展示作品の配置図作成。
23日	作品搬入
24日	作品展示
25日	} みんなでなんでも展
26日	

みんなでなんでも展 プログラム 参加者 約 2,000 人

10月25日、書道・陶芸・絵画・手芸等の展示。文章教室文集展・幼児の生活実態調査報告展・映画会「ピッピの宝島」。

10月26日、展示は25日と同じ、実演コーナー（ペタペタ工作・陶芸コーナー）、模擬店（やきそば）

演示、人形劇（ちいさな仲間たち）、影絵劇場（サークルななよん）。

市民大学講座「法律」一法とは何かー

月 日	内 容	講 師
1. 30	法の発達	松岡 誠氏 (創価大助教授)
2. 6	法と正義	
2. 13	近代法の性格	
2. 20	身近な事例から	松岡 誠氏
2. 27	法と社会	
3. 13	ま と め	

白梅親子映画会

上映日	上映作品	上映時間及び入場者
6月7日(土)	ピッピの新しい冒険	午後2時・4時 254人
8月7日(木)	トム・ソーヤの冒険	午前10時・午後2時 210人
10月26日(日)	ピッピの宝島	午前10時・午後2時 135人
12月20日(土)	雪の女王	午後2時・3時30分 203人
2月22日(日)	サミーは小さな大選手	午前10時・午後2時 160人

白梅名画劇場

上映日	上映作品	上映時間及び入場者
3月13日(金)	忍ぶ川	午前10時・午後7時 50人

昭和56年度はこれまでの事業をつみ重ねた年です。新たな事業としては「文化団体リーダー研修会」市民大学講座「社会」が行われました。白梅分館でもこの年から「子どもまつり」がはじまり、「利用者交流会」が毎年開かれるようになりました。

文化団体リーダー研修会

月 日	内 容	講 師 ・ 方 法
12. 6	文化芸術活動の生み出すもの (市民としての活動の意味)	瀬 川 武 氏 講義と話し合い
12. 13	“公民館”その意義と役割 (活動をより広め、深めるために)	奥 田 泰 弘 氏 講義と話し合い

市民大学講座「社会」

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 3	社会保障と人口問題	社会保障と人口問題のかかわりについて	佐々木交賢氏 (創価大学教授)
3. 10	医療問題	医療改善のためにどうしたらよいか	
3. 17	年金制度	年金制度の現状とその問題点	
3. 24	福祉行政と地方自治	福祉行政をめぐる問題について	児島亀之助氏 (福祉事務所長)
3. 31	福祉政策への提言	福祉政策のあり方	佐々木交賢氏

子どもまつり

月 日	テ ー マ	内 容
9. 26	オリエンテーション	プログラムの説明・自己紹介
10. 3	おまつりの企画	どんなおまつりにしていくか話し合う
10. 17	〃	〃
10. 24	〃	〃
10. 31	当日向け詳細準備活動	割ばし鉄砲、あめちゃんのつくり方を仲間同士教え合う
11. 7	〃	ポスター・チラシづくり
11. 14	〃	王冠バッチのつくり方を学ぶ
11. 21	〃	割ばし鉄砲、あめちゃんのつくり方を再確認する
11. 28	〃	当日の役割分担・会場づくり
11. 29	子どもまつり	

昭和57年度は試みの事業として公民館を利用しているサークルどうしが力を出しあい、創造的な演劇をやってみようということで、「ザ・YORIAI活動」が行われています。また、市民大学講座として「演劇」がこの年から始まり、60年まで続いたのち、市民劇団「バックス」として自主グループが誕生しました。この年はその他に「教育講座」や「ひだまりハイク」などが新たに行われるようになりました。「白梅会館利用者発表会」がはじまったのもこの年です。

「ザ・YORIAI」

月 日	内 容
9. 23	各サークルが今回の“劇”に対するイメージを語る
10. 27	用意された“たたき台”をもとに、内容の協議を行う
11. 8	内容の検討と各サークルの担当を決める
11. 17	〃
11. 29	内容の検討と配役の決定
12. 19	各サークルの製作担当者が全員集合し、意思の統一を計る
1. 10	シナリオの最終確認と大・小道具の製作
1. 15	本読み開始と立ちげいて、大・小道具の製作
1. 22	本読み開始立ちげいて、大・小道具の製作
1. 29	〃
1. 30	最終的な総合練習（音響設備、大・小道具を用意して）
2. 6	〃

市民大学講座「演劇」

月 日	内 容	講 師
9. 29	自己紹介、演劇概論	福 島 靖 夫 氏 (劇団ひまわり俳優)
10. 13	基本となる発声等の訓練、演劇概論	
10. 20	基本となる発声訓練を基に朗読実習	
10. 27	基本となる発声訓練と演技実習	
11. 11	〃	
11. 17	〃	
11. 25	〃	
12. 1	〃	
12. 15	エチュードの発表	福 島 靖 夫 氏 佐 藤 勝 貫 氏(照明関係技術者) 上 島 茂 氏(音響関係技術者)
12. 22	大ホールにて照明、音響施設見学	

「教育講座」

月 日	テ ー マ	講 師
10. 7	オリエンテーション	担 当 職 員
10. 14	学校教育の現状	白 井 慎 氏 (法 大 教 授)
10. 21	成績をどうみるか＝子どもにつけたい学力とは	関 根 庄 一 氏 (総合教育研究所)
10. 28	義務教育ってななに	〃
11. 13	小・中学校の教育	大 崎 玄 氏 (羽 村 東 小)
11. 18	どうして高校へ行くのか、行かせるのか、高校教育とは何か	田 代 三 良 氏 (教 育 研 究 所)
11. 25	高校はどうなって行くのか＝多様化をめぐって	福 永 笑 子 氏 (三 高 連)
12. 2	大人が学ぶことの意味	担 当 職 員
12. 9	大人が学ぶこと、実践を通して	鳥 海 しげ子 氏

「ひだまりハイク」

場 所 笹 尾 根

参加者 16人

コース 福生駅^{電車}五日市駅^{バス}数馬^{歩行1時間半}西原峠^{(笹尾根) 歩行1時間10分}

笛吹峠^{歩行1時間10分}笛吹^{バス}五日市駅^{電車}福生駅

「白梅会館利用者発表会」

実行委員会日程

日 時	内 容	参 加 者
昭和57年4月2日(金) 午後7時30分～9時30分	演示の部の役割分担をきめる	10団体 12人
昭和57年4月8日(木) 午後7時30分～9時30分	演示のプログラム最終検討	7団体 9人
昭和57年4月19日(月) 午後7時～9時30分	プログラム検討—決定	19団体 19人
昭和57年5月14日(金) 午後2時～4時	展示の部の部屋割り、役割分担	6団体 9人
昭和57年5月16日(日) 午後1時～4時30分	ポスター、立看板、めくり作成	19団体 20人
昭和57年5月21日(金) 午後1時～9時	作品搬入、展示	6団体 28人
昭和57年5月24日(月) 午後7時30分～10時	発表会ビデオ鑑賞、反省会	17団体 25人

発表会プログラム

5月22日(土) 展示 「手芸、籐細工、パッチワーク、木彫、生花、文集の作品展」

午前10時～午後5時

演示 映画「新子鹿物語」

午後1時15分～2時30分

5月23日(日) 展示 「手芸、籐細工、パッチワーク、木彫、生花、文集の作品展」

午前10時～午後4時30分

演示 「民謡、民踊、詩吟、囃子、コーラスの公演」

午前9時30分～午後4時30分

参加団体数 19団体 展示 6団体
演示 13団体

参加者数 189人 展示 68人
演示 121人

入場者数 約400人(参加者含む)

昭和58年度は松林分館で「子どもフェスティバル」が行われました。子どものための子どもの祭りをめざしています。また、実技指導のような内容の「レクリエーションリーダー養成講座」も実施されました。この年は各館で子ども会指導者研修会が行われています。

子どもフェスティバル

準備過程

月 日	経 過
12. 5	第1回フェスティバル打ち合せ、フェスティバルのイメージ、リーダー班の編成
19	フェスティバルのイメージづくり
1. 9	出しものの選出
23	実行委員長の選出と決定、役割分担
2. 6	班編成の決定
20	おかしや、ヤキソバ班、ガラクタ市、工作コーナー等の必要な道具の検討
3. 13	班会議で班名、班目標、今後の予定をたてる。
20	各班での準備と話しあい
27	〃

月 日	経 過
4. 3	各班での準備と話しあい
10	〃
17	〃
24	全体の進行状況の点検
29	各班のアピールの作成、ワッペンのデッサン募集、当日の予定作成
5. 1	こいのぼり、大型ワッペンの作成
5	リーダーだけの作業、リーダーの予定
7	フェスティバルの準備
8	第1回子どもフェスティバル

当日の催物

ガラクタ市、おばけ屋敷、模擬店（やきそば、おこのみ焼き、ベッコウアメ、クッキー） 人形劇（マンガクラブ、人形劇団小さな仲間たち） 大人の人形劇（タイニーワークショップ） 当日参加者 670人

レクリエーションリーダー養成講座

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 30	オリエンテーション	仲間作りとゲーム、自己紹介ゲーム	二本松 肇 氏
6. 6	仲間作りゲーム	身体と心をふれあうゲーム	〃
6. 13	講義と実技	レクリエーションとは何か、レクダンス	〃
6. 20	心はずむおどり	レクダンス、フォークダンス	〃
6. 27	心つながうたごえ	身体をうごかしながら歌をうたう	〃
7. 4	講義と実技	リーダーの役割、心つなが歌ごえ	〃
7. 11	つどいを楽しく	レク活動を生かしてパーティーを	〃
7. 18	たびだちのつどい	キャンドルサービスでパーティー	〃

昭和59年度になると「ボランティア講座」が開かれました。翌60年からは社会福祉協議会との共催で行われるようになります。公民館だけでなく、他機関との連携で行う事業が出てきました。また、市民名画劇場とドッキングして「小栗康平監督講演会」も行われました。この年から「PTA入門講座」が毎年行われるようになります。また、「手づくり絵本」の講座や「木工教室」が開かれるなど、事業に多様性が出てきました。

ボランティア講座

月 日	テ ー マ	講 師
9. 26	「障害」とは	近藤 正氏（淑徳短大教授）
10. 3	障害をもつ人の理解とかかわり方	山下 務氏（青梅学園々長）
10. 8	障害者問題とボランティア活動の実際	近藤 正氏
10. 13	施設見学会	場所 青梅学園
10. 17	ボランティアのこころ	木村洋子氏・清水照美氏（ボランティア）
10. 24	地域に根ざしたボランティア活動	森 正夫氏（ボランティア）

精密木工教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 23	オリエンテーション	自己紹介他	稲 垣 秀 夫 氏 野 口 偉 雄 氏 （東京身体障害者 職業訓練校教諭）
	練 習 I	道具の説明、継手の練習	
3. 2	練 習 II	〃 ほぞ穴の練習	
	製 作 I	天板、側板の継手製作	
3. 9	製 作 II	側板のほぞ穴、2段仕切り継手製作	
	〃 III	組み立て、引き出し製作、組み立て	
3. 16	製 作 IV	台輪の製作、組み立て	
	〃 V	調整	
3. 23	仕上げ I	ペーパーかけ、目止め	
	II	塗装	

PTA入門講座

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 8	いまなぜ、PTAが必要か	いま教育問題を考える上でPTAの役割を考える	白 井 慎 氏 (法政大学教授)
14	PTAの歴史	PTA発足時の理念を学ぶ	
22	活力あるPTA	PTAを活力あるものにするための手だてを考え、学級PTAの役割を考える	

手づくり絵本講座

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 8	絵本について	子どもにとって絵本とは何か	若 山 け ん (絵本作家)
15	題材選び	民話から絵本の題材をさがす	〃
22	割 ふ り	文章と絵のわりつけ、ラフ画製作	〃
29	絵本原画づくり	絵本画づくり	〃
12. 6	〃	〃	〃
1. 17	〃	〃	〃
24	〃	製本の技術	〃
2. 17	作品完成式	合評会	〃

昭和60年度は公民館で「利用者研修会」が行われました。また、聴覚障害者のための映画会や講演会「ナイロビ世界会議から」という事業も実施されています。文学教室もはじまりました。また、成人男性をターゲットにした「うちのおとうさんはすごい」も実施されています。

公民館利用者研修会

月 日	内 容	講 師
3. 27	公民館と自主グループ活動	島 田 修 一 氏 (中央大教授)

文学教室

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 3	真青ないかり	賢治の生涯 友への手紙「春と修羅」「土神と狐」	武田 秀夫氏
3. 10	親しいものとの別れ	暗いジョバンニと暗い賢治「水仙月の四月」 妹トシとの別れ、「ひかりの素足」	〃
3. 17	父 と 子	「鳥を捕る人」をめぐって 「百年」「貝の火」	〃
3. 24	異 空 間	幻想する自己と批判する自己、異空間 幻想の消えるさびしさ「鳥をとるやなぎ」	〃
3. 31	銀河鉄道の夜	「銀河鉄道の夜」推移 第3次稿から第4次稿へ	〃

「うちのおとうさんはすごい」

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 7	自転車を直しちゃおう	パンク修理等の力を身につける	伊藤真基雄氏
6. 14	手品であっ!!と言わせるーⅠ	かんたんな手品を覚える	高橋 邦彦氏
6. 21	〃 ーⅡ	〃	〃
6. 28	刃物を研いでみせる	ほうちょうの研ぎ方を学ぶ	高水 一男氏
7. 5	アウトドアライフに挑戦	登山用具等の使い方の実践	島田 高広氏
7. 7	アウトドアライフ実践	テント設営などの実践	〃

昭和61年度は、男性を対象にした婦人問題の講座として、講座「男の子育て——性別役割分業を超えて」が実施されました。また、前年に行われた公民館調査をもとにした講座「公民館調査にみる公民館」も実施されています。白梅分館では、1人でも安全に日帰りハイキングができる力をつけることをねらいとした「サンデーハイキングクラブ」が実施されました。

講座「男の子育て——性別役割分業を超えて」

月 日	テ	マ	講 師
3. 11	わが家の子育てを語りあう		谷内真理子氏
3. 18	子育ての目指すものは……		
3. 25	性別役割分業について考える		

講座「公民館調査にみる公民館」

月 日	内 容	講 師
10. 1	公民館調査の概要	奥田 泰弘氏 (中央大教授)
10. 8	他市町との比較	
10. 15	市民は公民館に何を求めているか	
10. 22	これからの求められる公民館とは	

サンダーハイキングクラブ

月 日	テ	マ	内 容	講 師
5. 28	オリエンテーション		自己紹介、教室の内容と説明	佐久間直冬氏
6. 6	用具に強くなろう		ハイキング用具について詳しく学ぶ	
6. 13	地図とコンパス		コンパスの使い方と磁北線の引き方	
6. 22	オリエンテーリング(1)		滝山で地図とコンパスを使う	
7. 11	岩に出会ったら？		具体的な場面での技術を学ぶ	山崎 順一氏
7. 19	夏山の気候を知る		夏山での具体的変化と対応を学ぶ	高橋 忠儀氏
8. 23	登山計画の作り方		登山計画書の意味や作り方を学ぶ	〃
9. 5	計画書を作るー(1)		高尾山へ登る計画を作る	佐藤 文子氏
9. 7	オリエンテーリング(2)		滝山丘陵でオリエンテーリング	
9. 15	奥多摩を歩くー(1)		高尾山へハイキングに行ってみる	
9. 19	計画書を作るー(2)		浅間嶺へ登る計画を作る	
9. 28	奥多摩を歩くー(2)		浅間嶺へ登り未開ルートを下る	

手づくり劇団の手づくり公演 能村 貞明

私たちの劇団は、昭和57年から始まった公民館主催の「演劇講座」から生まれました。この劇団は劇団「ひまわり」の俳優福島靖夫氏を講師としてお招きし、以後60年まで4回実施され、2年目「青い鳥」、以後「真夏の夜の夢」、「11匹のネコ」がそれぞれ市民会館ホールで上演発表されました。

そして、4年目の上演後に自主的な劇団にしようという参加者の声が高まり、福生市民劇団「バックス」が誕生したのです。「バックスって何? どういう意味?」とよく聞かれますが、バックスとは古代ギリシャの神“ディオニュソス”のラテン名で、酒と演劇の神といわれています。そこで、この両方? にちなんで福生市民劇団「バックス」と名前がついたのです。

私たちの劇団には、現在30名の団員がいます。小学5年生から中学生、高校生、大学生、主婦、OL、保母、会社員、公務員、教師とさまざまな年齢・職業の人が集まって演劇というひとつの目的に向かって歩んでいます。

私たちが活動していく上で大切にしていることは、やはり人の輪ということです。いろいろな立場の人の集まりですから、時には練習方法や運営面等で意見の対立もありますが、そういう時はいつもみんなで話し合って解決します。だれか1人が代表というわけではなく、バックスではいつもみんなが同じ立場の一員だからです。

私たちは公民館からできたサークルですし、決してプロを目指しているのではありません。市民の方に誰でも気軽に観に来ていただける劇団でありたいと思っているので、入場料を取ることなどは考えていません。公演にかかる経費はすべて団員の月々の会費でまかなわれています。衣裳、舞台装置等もできるだけ自分達で作りあげ、今回の公演では劇中歌も団員が作詩・作曲をしました。

私たちは現在も公民館で活動していますが、それは単なる練習場所というわけではありません。公民館は市民の学習・文化活動の拠点ですし、他のサークルや人との出会いの場でもあるからです。今回の公演では、特にそのことを強く感じました。今回は効果音や音楽がとても重要な劇でした。私たちだけではとても困難だと思い、「サークルななよん」の方に相談したところ、音響を引き受けてくれました。「サークルななよん」は、同じく公民館で活動している影絵のサークルで、音作りに関してはプロ並みの腕前をもっています。練習にも何回かいっしょに参加してもらい、しっかりと音合わせをして、当日もすばらしい音を聞かせて劇を盛り上げてくれました。

今後も地域の人たちにすこしでも楽しんでいただける劇をつくっていくために、みんなで力を合わせていきたいと思っています。